

卒論・大学院進学に向けて 今、できること・・・



レポートや論文の書き方がいまいちわからない。

大学院って、どんなところ？

そんな悩みや疑問を抱える**学部生の皆さん**へ、
工学研究科大学院の**先輩からのメッセージ**を**3回**に渡ってお届けします。

院生の皆さんの声のなかにきっと**ヒント**があるはず。
ぜひ耳を傾けてみてください。

1. 学生生活編

2. レポート・論文編

3. プレゼン編

※文中のMは修士課程、Dは博士課程の意（例：M1=修士1回生）

Q1 レポート・論文の書き方はどのように身につけましたか？

- 素敵な文献を参考にする。 [地球系・M2]
- 定期的な研究室で開催される研究会で、作成した資料を先輩に添削してもらった。 [電気系・M1]
- 過去の先輩のレポートを参考にしながら、書き方を学んでいます。また、先生や先輩方のチェックをもらうことで改善につなげています。 [化学系・M1]
- 学部時代はほとんど自己流で書いていて、研究室に入ってから文章の書き方の指導を受けました。学部時代の自分のレポートを今見返すと、なかなかひどいなと思うことも多いので、文章の書き方についての本を1冊読めばよかったと思っています。 [電気系・D1]
- 書き方の本を少し読んだことはあるが、なんとなく書いてしまっていた面が強く、反省している（卒論に関しては、構成から執筆のポイントまで、本をしっかり読んで参考にした）。 [物理系・M2]
- 高校で少し学んでいた。あとは、卒業論文を書くときに身につけた。 [建築系・M1]
- 自分は研究室の指導教員の方が親切丁寧に教えてくださったので、かろうじて書けている感じです。「レポートの書き方」みたいな本を10回読むより1回ちゃんと書いた方が身につく（気がします）。 [化学系・M1]
- 何となく書いていたので後悔している。 [物理系・M2]

自己流では難しそう・・・。

「Book Guide」(6ページ)で、
レポート・論文の執筆に役立つ
図書を紹介しているので
参考にしてね。



発行：桂図書館 | 工学北・工学南図書室
090stosho@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
発行日：2022年11月1日 更新日：2025年3月1日

本誌は桂図書館 | 工学図書室ウェブサイト、
「工学部生リテラシーとは？」ページからも
ご覧いただけます。



Q2 レポート・論文執筆に必要な文献はどのように探していましたか？

- キーワードをGoogleで検索して出てきた本をKULINEで探す。 [地球系・M2]
- 初めは先生に薦めていただいた文献を読み、その文献内で引用されている参考文献を辿るということを繰り返した。 [電気系・M1]
- シラバスに載っている参考文献を図書館で探し、その本の周辺にある書籍を手当たり次第に目を通し、知りたい情報が書かれているものや、自分の理解の助けになるものをピックアップしていました。 [電気系・D1]
- Google Scholarでキーワードを入力して、「総説論文」にチェックを入れることでレビュー論文のみを検索にかけることができるので、よさげなやつを見繕って読む。その後レビュー論文から気になる部分の原著論文にアクセスする。 [化学系・M1]
- キーワードをGoogleで検索して出てきた本をKULINEで探す。また最近はインターネットで探した情報を、信頼できるかを判断したうえで活用することもある。 [建築系・M1]
- 研究を進めるうえで調べた論文等しか参考にしていません。 [化学系・M1]
- 大学の図書館で関連していそうな本を探す。インターネットでキーワード検索をする。 [物理系・M2]
- 基本的にはGoogle Scholarでキーワード検索し、出てきた文献の中から関連するものを参考にしてきた。Web上で閲覧できる論文の中にめばしいものが無い場合には、図書館に行き、関連する書籍が置いていないか探していた。 [物理系・M2]

One Point

総説論文 (Review) とは

特定の分野やテーマに関する先行研究を集め、体系立ててまとめたもの。

Google Scholar や Web of Science 等のデータベースでは、検索結果画面で総説論文を絞り込むことができます。

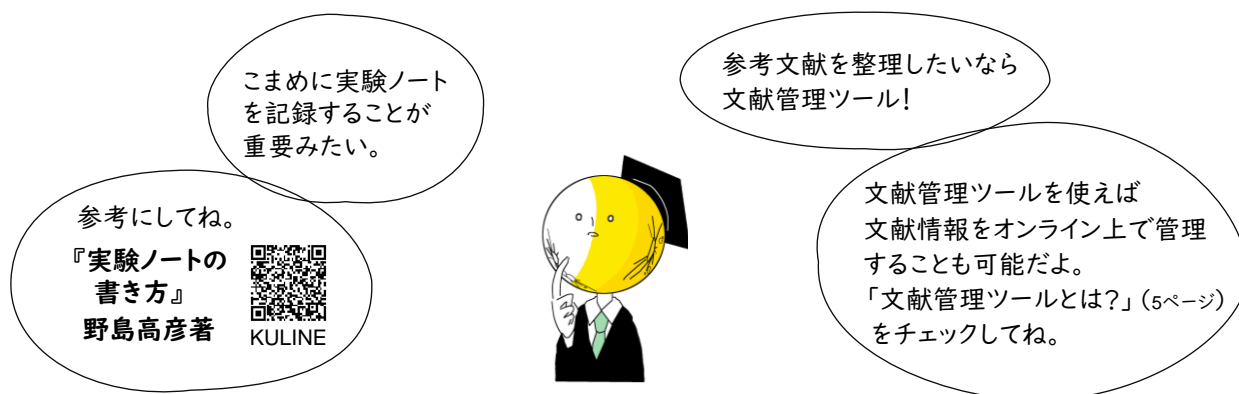
気になるトピックについては、総説論文内で紹介された原著論文を読み進めていきましょう。その分野やテーマの概観や研究動向をつかむことができるため、レポート・論文執筆の手始めにぜひチェックすることをお勧めします。

Q3 レポート・論文はどこで執筆していましたか？

- 自宅では集中できないので研究室に行っていた。 [地球系・M2]
- 文献を読み、自分の考えを書き出す作業は主に自宅で行った。実験や考察は研究室に行き、相談できる環境で行った。 [電気系・M1]
- 自宅では集中できないため、研究室で行っていました。 [化学系・M1]
- 自宅、大学、製図室。 [建築系・M1]
- 学部時代は図書館で、院生になってからは研究室で執筆しています。 [電気系・D1]
- 基本的に自宅で執筆していた。 [物理系・M2]
- 1日同じ場所にいると飽きてしまうので、図書館や研究室、喫茶店などを回りながら書いていました。 [化学系・M1]
- 主に自宅で書いていた。 [物理系・M2]

Q4 レポート・論文執筆に関して、役に立った or 使えばよかったツールは？

- Google Scholarで検索した論文をEvernoteにメモしておけばよかった。[地球系・M2]
- 文献の読込を含め、実験ノートに進捗を丁寧に記録しておけばよかった。[電気系・M1]
- 参考文献を正しく書いてくれるWebツールのものが役に立つと思います。使ったことはまだないので、今後使っていきたいと考えています。[化学系・M1]
- 参考文献は絶対に引用元として書くため、引用するたびに記録としてまとめておくと良い。私は、PowerPointにまとめていた。[建築系・M1]
- 卒論執筆時に先輩から教えてもらい使い始めたのだが、LaTeXでの原稿執筆時に、後々引用・参照する可能性がある文献については、「JabRef」という文献管理ソフトを利用すると、参考文献の挿入が非常に楽になった。[物理系・M2]
- コロケーション辞典。単語と単語の慣用的な結びつき(コロケーション)を確認することができ、自然な英文を書くのに役立ちます。[化学系・M1]
- 学部生の時はWordや手書きで書いていたが、当時からLaTeXを使っておけばよかった。[物理系・M2]



Q5 レポート・論文執筆にまつわる失敗エピソードを教えてください!

- 実験したことについて考えながらレポートを書いていたら、当初の予定とは異なる結論に行き着いてしまい、データを取り直すことになった。初めに全体のアウトラインを決めてから書き始めることの重要性を学んだ。[電気系・M1]
- 三回生の実験レポートの時に、優しい先生だと勘違いし、雑なレポートを提出したら、割と怒られて再提出を命じられました。[化学系・M1]
- 授業の課題レポートを書いた際、締め切り間際になって図書館に行ったら関連する図書がほとんど借りられており、十分な資料が得られなかった。[物理系・M2]
- 期限を間違える、提出フォルダを間違える。[建築系・M1]
- 初めころは、「回答として何が求められているか、具体的な内容になっているか」ばかり考えており、レポートの構成についてはほぼ意識していなかった。そのため、論理的な飛躍や同じ内容の繰り返しが多い文章になってしまっていたと思う。[物理系・M2]
- データが飛んだこと…。定期的にバックアップを取ることや、その時はめんどくさいけどデータのファイル・フォルダ名は自分がその時何をしたか思い出せるようなものにしておくと何か救われるときが来ると思います。[化学系・M1]

Q6 これからレポート・論文を書く学部生に向けてのメッセージをお願いします！

- まずは書き始めることが一番重要です。
[地球系・M2]
- 私自身、学部3回生までは、レポートの基本や書く上でのポイントをよく理解できていませんでした。その後、卒論執筆に際しレポートの基礎を学び、複数のレポートを書いてきた経験から、レポートを書く上で特に意識してほしいことが2点あります。1つは、「自分で読んだ時に読みやすく、そのレポートをもとに誰にでも分かりやすいプレゼンができること」です。レポートとプレゼンは書く・話すと一見違うようにみえて、実際は共通する部分が多くあります。読みやすく関心が引かれるレポートは、その構成や内容が洗練されているはずで、そのようなレポートをベースにすることで、分かりやすく魅力的なプレゼン作りが捗ると思います。またこのように、自分の調べたことや考えを誰にでも分かりやすく伝えるためのレポート執筆・プレゼンの機会は、研究室に配属されてから数多くあります。学部時代からこの両者の繋がりを意識して取り組むことで、後々とても楽になると思います。2つ目は、「参考文献との向き合い方」です。レポートを書く際には、必ずと言っていいほど参考文献が付きまといま。私自身も犯してしまった失敗ですが、授業レポートだからといって何となくいくつかの文献の要点をまとめると、結果的に内容の一貫性や独自性が無くなる可能性が高いです。また、文章全体としての構成もいいものにはならないでしょう。特に卒論や修論などの学術論文を執筆する際には、これらは致命的な問題となります。参考文献はあくまで補助的な位置づけにあり、レポートのベースは自分自身で考えた構成・要旨であることを意識付けておくといいと思います。はじめは苦勞することが多いと思いますが、書籍や実際の優れたレポートを参考に、頑張ってください。
[物理系・M2]
- レポートやプレゼンの能力は、学生時代はもちろん、その後においても役立つと思うので、今のうちに身につけておいた方が良く思いました。
[物理系・M2]
- つらいかもしれないけど、レポート・卒論をしっかりとやりきると、かなりレベルアップできます。がんばってください！
[化学系・M1]
- レポートを書く上で一番必要なものは誠実さだと思います。決して楽をしようなどと思わず、わが子のようにじっくりと向き合い、大切に育て上げてほしいと思います。
[化学系・M1]
- レポートは学生時代を通しての付き合いになるので、早めにノウハウを身につけておけば将来楽になります。一緒に頑張りましょう。
[建築系・M1]
- レポートを書く際に、自分のやったことや考えたことを読み手に理解してもらおうということを意識してから、目的が明確になり気楽に取り組めるようになりました。レポートと聞くと何となく不安になるかもしれませんが、気負わずに頑張ってください。
[電気系・M1]
- 出されたレポートを真面目にこなしていれば、十分力はつくと思います。私はそこまでしかできませんでしたが、たまには文章作成の本を読んだり、見やすい図の作り方を調べてみたり、Wordで十分なところをLaTeXを使ってみたりすると、将来役に立つスキルが着実に身についていくと思うので、個人的にはおすすめです。
[電気系・D1]

地道に取り組むことが
ノウハウを身につける
近道です。


まずは読み手に
わかりやすく
「伝える」ことを意
識しましょう！



はじめの一步!レポート・論文の書き方

「レポートの課題が出たけど、いったい何から手を付けたらいいの?」というみなさん。
まずは桂図書館・工学図書室サイトの「**学習・研究サポート**」ページを開いてみてください。

レポート・論文の書き方の他、図書や論文の探し方、講習会情報など、知りたいことを調べたり、その結果を形にして発表するためのヒントを載せています。

 こんな時は **ここ** をチェック!



KULINEで効率的にレポート・論文の書き方に関する本を探すには?

4. 学術情報を適正に活用・発信する



文献探し、何を手がかりにする?

2. 学術情報を的確に入手する



参考文献リストを作成したい!

4. 学術情報を適正に活用・発信する
→レポート・論文の書き方
→参考文献情報の書き方を学ぶ



文献管理ツールとは?

レポートや論文を作成するためには、テーマに関連するさまざまな文献を読み込み、それらを参考文献リストとして掲載する必要があります。

「**文献管理ツール**」を使えば、収集した文献情報をオンラインで保存し、自分なりの方法で整理しておくことができます。また、参照・引用した文献情報を指定された様式 (SIST02, ACMなど) で出力し、参考文献リストを作成することもできます。

「文献管理ツール」は有料のものを含め数多くありますが、京都大学に所属する方は、ユーザ登録を無料で「EndNote Online」(Clarivate Analytics社提供) を利用できます。



興味のある文献情報を「文献管理ツール」というオンライン上の引き出しに入れておけば、後で役に立つかも。



Book Guide

図書はキャンパス間、
桂 ↔ 吉田で
取り寄せてできるよ。



便利!



大学で学ぶ上で欠かせないレポートや論文作成。まずは基本から。
基本を身につける手助けとなる図書を選びました。

レポートや論文作成に関する図書

論文の教室

レポートから卒論まで
(NHKブックス 1272)

戸田山和久

NHK出版, 2022.1

所蔵館: 工北、附図、吉田南、ほか



ダメ例から学ぶ実験レポートをうまくはやく書ける ガイドブック

手つかず、山積み、徹夜続きそんなあなたを助けます!

堀一成, 北沢美帆, 山下英里華

羊土社, 2022.4

所蔵館: 工南、吉田南、宇治



大学1年生のためのレポート・論文作成法 書く意義に気づく15回のライティング講義

大峰光博, 奥本正編集

ふくろう出版, 2021.11

所蔵館: 工北、附図、吉田南



工学系のための伝わるライティング入門 実験レポートから英語論文まで

伊津野和行, 荒木努, 四井早紀

森北出版, 2021.8

所蔵館: 桂、工北、工南、附図、ほか



理系のパラグラフライティング

レポートから英語論文まで論理的な文章作成の必須技術

高橋良子 [ほか]

羊土社, 2024.4

所蔵館: 桂、附図、吉田南、ほか



まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書

阿部幸大

光文社, 2024.7

所蔵館: 桂、附図、吉田南、ほか



今も読み続けられている図書

理科系の作文技術 (中公新書 624)

木下是雄

中央公論新社, 2002.6

所蔵館: 桂、工北、工南、附図、吉田南、ほか



論文の書き方 (岩波新書 青版 341, F92)

清水幾太郎

岩波書店, 1959.3

所蔵館: eBook、工南、附図、吉田南、ほか



文章作成ツールの定番「LaTeX」

LATEX美文書作成入門 改訂第9版

奥村晴彦, 黒木裕介

技術評論社, 2023.12

所蔵館: 桂、工北、工南、吉田南、ほか



1週間でLaTeXの基礎が学べる本

明松真司

インプレス, 2022.7

所蔵館: eBook、吉田南



先輩からの おすすめ図書



桂図書館スタッフでもある工学研究科の大学院生が選ぶ
桂図書館おすすめ図書をX(#KatsuraLibBooks)で定期的に発信中!